

十月号 内容紹介

秋十月号を皆さまのお手元へ届けるべく只今印刷に大車輪です。躍進奇譚クラブが断然他の雑誌を圧倒すべく総力を挙げた傑作揃いでつと御満足召される事と思います。先づオフェット色刷として月岡芳年筆にかゝるかの有名な一つ家の鬼婆が妊婦の腹をささうとして逆吊りにしている図を掲げました。今後毎月、色刷として効果のある縮写真で巻頭を飾るつもりです。口繪十六頁は本誌の真価を皆様に問う問題作ばかり。津森澄子さんの告白文をもとに都築肇子女史が物された六枚の責繪は従来にない清新さで読者に迫るものがあると思います。今後毎月本誌の口繪を執筆される外、今迄書きためた責繪をもとにして、峯子画帖を描いてみたいと云つていられますので、どうか御遠慮なくどしどし注文をつけてやって下さい。責繪の感覚については日本一を自負される女史の今後の進境ぶりを見て頂きたいものです。滝島子さんの体操倉庫の四枚続

きの繪物語は、都築女史とは一風変わった味でその緊縛美の女体は背景の人物のいきいきとした活躍によつて更によい効果を發揮しています。目次裏には南川和子女史の「針を刺された女」八態が奇抜と変化の妙味を争つて何れもその柔軟なタッチは皆さまを恍惚境へさそひ込むでしょう。今回は前号と違つて女体に陰翳をつけてその豊満な肉体のポリウムを遺憾なく發揮しています。口繪写真是一年ぶりに挿外の縛りを撮影、数十枚のネガの中から快心作数葉を選び出してお目にかけることになりました。伊藤晴雨氏の一代の傑作「美人乱舞」より貴重な文献としての責繪を村田誠一氏の提供と伊藤晴雨氏の御厚意によつて口繪第一頁を飾ることが出来ました。この「美人乱舞」は伊藤晴雨氏の御手元には勿論、発行所の粹古堂にも保存されていないという珍品であります。責繪画家につきましては更に新人が続々と作品を持ち込まれていきますので、必ずや皆さまの御期待にすることが出来ることを確信しております。さて、本文に移りまして、本誌一月

号に傑作「燐光」を発表された久留木栄氏が自伝的論文として「現代のサデイズム」を寄せられ、「雌獣」の作者近見啓氏が「聖画の誘惑」で久しぶりに清新な空気を注入して貰えました。作り話や小説ではない本誌獨特の直接読者より寄せられた「偽らざる告白の記」の特集として六つの変つたケースの体験談を得ました。これは内容を読んで頂ければ、単なる作り話がどうかわかつて頂けると思っています。創刊号から読者通信をのせている編集者のでつちあげは必ず行き詰ります。噛めば噛む程真価のある本誌の内容は自信を持つて断言出来ます。「哀艶責繪論」と「蜘蛛の蝶々」は文句なしに推奨出来る作品です。その他、何れの作品をピックアップしてみても自信満々たるものばかりです。どうか月末の発売日をお待ち下さい。

(編集部 便り)

大雨以来の晴天続きで毎日厳しい暑さが続いて居りますが、立秋も過ぎれば次第に朝晩涼しさを加えてくる事と思います。吾妻新氏からサデイズム小説としての「庄巻」感情教育」を寄せられ十一月号から三回に亘つて掲載の運びです。吾妻新氏と沼正三氏は他誌へは絶対に書かない奇巧にだけ全力を挙げて応援すると言つて下さっています。其の他本誌お馴染みの寄稿家の方々は挙つて心強い御支援の御便りを続々とお寄せ下さいますので、編集員一同その御好意に感激、暑さにも負けず頑張つております。既に新年号の新プランも企画済で今秋から明春にかけてはタイムリー・ヒットで皆様を驚かすつもりですから、どうか編集部を御鞭撻下さるようお願い致します。

KK通信 第13号

昭和二十八年十月一日発行(毎月一回一日発行)
発行人 吉田 稔 編集人 箕田 京二
発行所 大阪府堺区内菅原通四ノ三〇 曙書房
定価 二十円 (振替口座大阪三四九五六番)

KK通信

第一三三

昭和28年10月1日発行(毎月1日1回発行)
昭和28年4月17日第3種郵便物認可
発行所 堺局区内菅原通4ノ30 曙書房
定価 一部 20円

「責めの劇團」について

伊藤晴雨



六月四日市川市鈴木本演芸場に於て第一回開催、折柄の大風雨にて来賓者少なかりしも予期以上の効果を挙げ、七月十一日第二主曜日に文京区東片町中村座に於て第二回開催、各知名の方々が会員として来賓され、催し物は番町

山思い切つてかける趣向でございます。口繪敷のお菊は実説の方で、お菊を井戸へ吊してから血紅を沢山用いまして凄味を出しました。

少々腰が痛くなりました。幸にして日毎に会員が陸續と参りまして、江戸川乱歩氏や村上三三氏、長谷川伸氏等も来てくれることになりました。何分予想外の出費のため一名金三百円宛としてありますが、次回からは五百円として会場で撮影し尤も舞台写真カビネ版五枚をその中に含めて平均に会員に配布することに決定いたしました。登場人物は及ぶだけ小敷にして、責めの時間を多くしております。これから責められる女優を増して行くつもりでございますが、仲々いゝのが見つかりません。上ツ面で演技する女優では駄目なので、その養成に骨が折れます。所謂「女子と小人」でございます。

責めとの会員の希望によりまして、舞台へ稍大掛りな井戸を作りました(舞台の下へ十尺程穴を掘りましてつるべの長いのをそのまゝ入れるように致しました)女形のかつらも仕掛物と申しまして島田嶺が崩れて段々元結の切れ散らし髪になり、その上から水を流

の小劇場にて間口五間、奥行三間、高さ十一尺こうした小劇場の方が都合がよろしゅうございますので、将来毎月当座に於て行うつもりで居ります。

背景製作も、大道具の切り出しも、脚本も、演出も全部私一人、おまけに引幕迄揮毫するという七十二歳の老人

(文責記者)



〜或る富豪の告白〜

マゼヒスト誕生 (三)

峰村 佐吉

「なに？そんな馬鹿なことが——」
私は酒の酔も一瞬さめて、冬木(彼
は母方の実家の姓でした)の眼をじつ
と見かえしました。

「ではあなたは津矢子を絶対に処女だ
つたと言ひ張られるんですね、僕は確
実な証據を持つてゐるから言ひますが
それでは賭をしましょうか、負けつこ
のない賭でスリルはないが、まさか首
を賭けようなんて言ひませんよ」

「津矢子が僕の所へ来る前に男があつ
たつて？冗談も事によりけりだ、そん
な馬鹿な事を云つてくれば困る。変
な嫌がらせは僕には通用せんよ」
「嫌がらせですつて？そう言われる

んなら、バラしてしまひましょう。彼
女には気の毒だが——」
彼は如何にも私を見くびつたような
言ひ方でそう言うのを氣短かな私の事
ですから、普通の事だつたら既に彼を
足腰立たぬ位になぐりつけてゐるか或
は部屋の外へはり出しているところだ
ですが、何にしろ事が新婚はやくの愛
妻津矢子の貞操に關した事ですので私
はイラ／＼する氣持をやつとこらえて
相手になつてゐました。彼も又十分そ
れを計算にいれての事でしよう。悠々
と落着き払つてゐます。しかし、この
冬木という男は一体なんという奴でし
よう。彼は津矢子の母方の従兄弟とい

う血縁ではありませんか、それが彼女
の貞操を事もあろうに夫たる私に告口
しているのです。

「そんな奥歯に物の挟つたような遠廻
しの言ひ方をせずに男らしくはつきり
言つて見給え」

私は爆發しそんな氣持を押えてそう
言ひました。私はこれから京都へ出て
一軒杜用で寄る所があつたのでいら
らして思はず強い語氣になつてしま
した。

「そうですか、それでは言ひましよう
僕は津矢子とは夏祭りの晩も逢つてい
ます。勿論、それ迄に何度もね、確か
あの日は貴方とも亭で逢つてきたと寝

物語に言つていましたか——」
「えゝゝ？、夏祭りの晩？」
私は自分を忘れて驚愕の聲を出して
いました。夕涼みの一時、もう私の許
嫁となつた津矢子を誘つて散歩した事
がありました。その日、何か心がせく
らしく、そわ／＼として私と別れて行
つた彼女、私は処女の羞らいつしか思
えなかつたその態度も、今になつては
何か思い當るふしがないでもありませ
ん。それではあれからこの冬木と逢つ
ていたのか？いやそうではない、あの
深窓の麗人のような津矢子がそんな馬
鹿な真似をする筈はない。私の心の一
隅ではそれを否定する此びがありまし
た。然し、冬木の言葉にも単に嫉妬か
らくる嫌がらせだけでないものがあり
ます。私の心は真黒な疑惑の雲に包ま
れてゆきました。

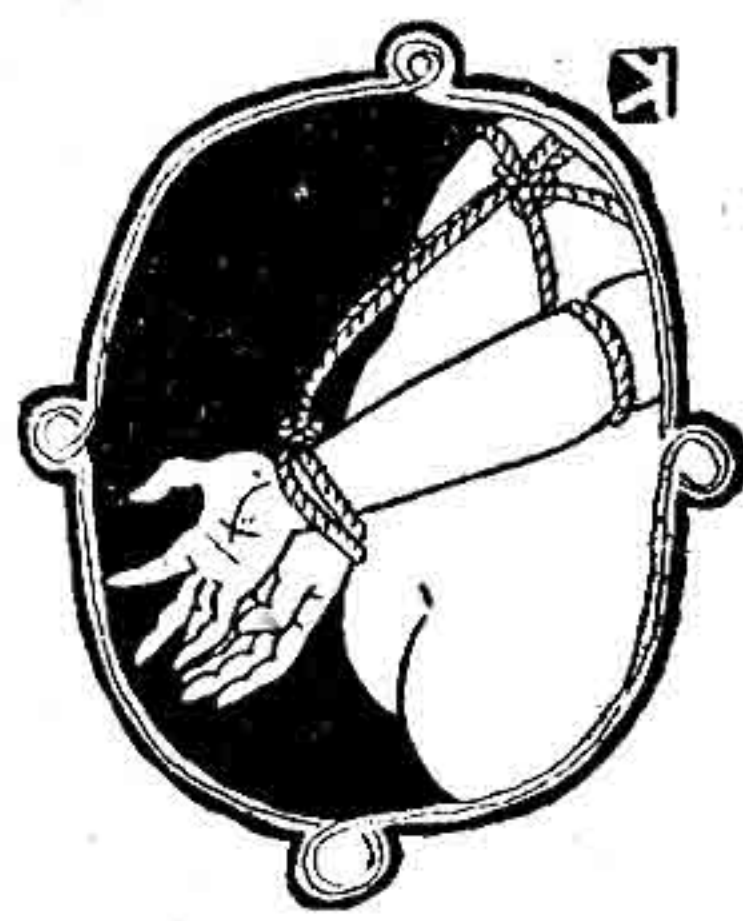
私は自動車を呼ばすと、京都へ行く
用を急に中止して家へ向けて走らせま
した。仕事の都合上、私は夜晩くなる
事は屢々ありましたが旅行の時以外、
外泊する事はありませんでしたので、
自動車の警笛が鳴ると、門番のオヤジ

代理部だより

◎九月号の緊縛美のオンパレードは好
評でした。どうかあの見本によつてお
申込み下さい。実物は薄手光沢面印刷
紙焼付の手札型に、フェロタイプを施
したものです。

◎アルバム「美しき縛しめ」と画帳

補 仁波呂
抄 遣



(二頁上段四行目)素裸にして縛り
つけ嚴肅な洗札を受けるのです。(同
下段二行目)ズロースも剥ぎ取られる
と(二三頁中段三行目)柔かいお尻
は見る見る真赤になりました。(同下
段十二行目)とても苦しく、便をちび
りそうになり(三五頁下段九行目)股
の間(同)愛液(四六頁上段十九行目
(乳房を(同)下をまさぐり(同二二
行目)性感を刺戟され(同)歡喜の声
が(同中段一行目)妙な刺戟(同十一

時代物責繪巻”は、まだお求めになら
れない方々は至急お申込下さるようお
待ちいたします。代価並に内容説明は
本誌九、十月号をごらん下さい。

◎アルバム第二集と悦慮画帳”峯子習
作”の二点は目下作成準備中です。

◎吾妻新訳、全訳クリスティーヌは代理
部にてお取次いたします。

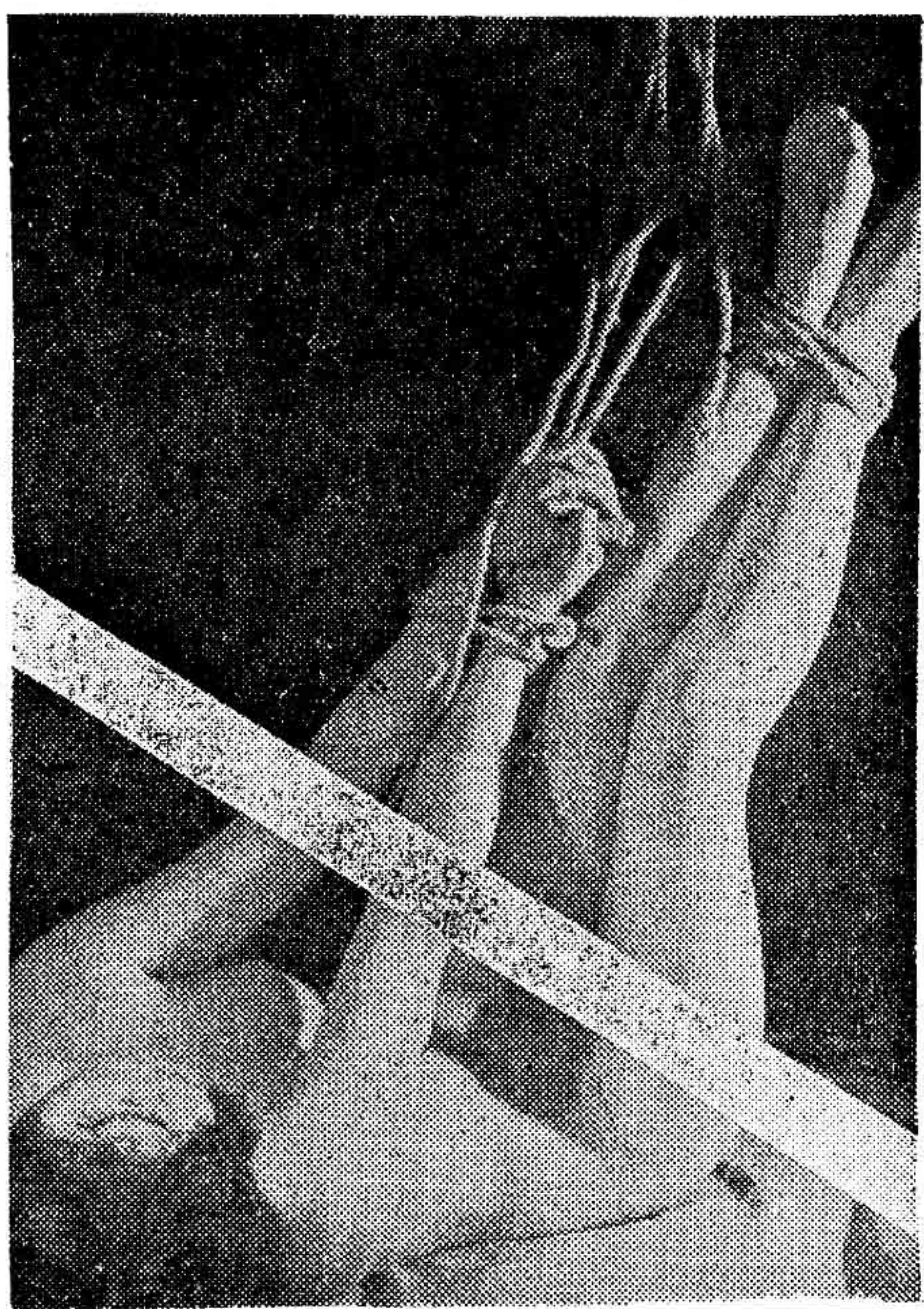
行目)刺戟を続け(八七頁下段六行目
(白人達の手は蝟のようにからみつき
(同)つと云う間もなく(百七頁上段
十八行目)スカートを捲くり、ズロー
スを押し下げて(同二十行目)ゴム管
の端を自分の肛門の中に押込みました
(百八頁上段十七行目)垂れ落ち(百
八頁上段十行目)オナニー(同十三行
目)自慰の(同十四行目)オルガスム
ス(同十七行目)ことは(百九頁五
行目)糸巻は肛門の中にスツポリと入
り(同下段一行目)肛門に風船の口を
くわえ込んだまゝ(百十頁上段四行目
(を肛門に入れたまゝ(同下段十三行
目)自然と圧迫された(百五十四頁上段
二二行目)えも云われぬ心好き(百五
五頁上段二十行目)卑猥な

短信往来

○予約者に対する画帳時代物責繪巻の
発送は七月二日でした。

○女を縛つた経験を語る座談会は八月
二日、辻村隆氏の司会で盛況裡に行わ
れました。十月号の掲載に間に合いま
せんでしたので十一月に発表いたしま
す。

○縛り繪と写真のアイデアは熱心な
る読者有志から続々と寄せられ、既に



その一部は写真となつて完成、尚瀟灑
子女史の麗筆によつて画筆にのるもの
も出てきました。

○縛られた女ばかりの座談会に出席の
モデル嬢が特に本誌のために誠意を以
て協力下さるよう申出られました。

○読者からの通信は暑中にも拘らず益
々増加の一途を辿つています。次には
珍しきお手紙の御披露をしたいと思つ
ております。

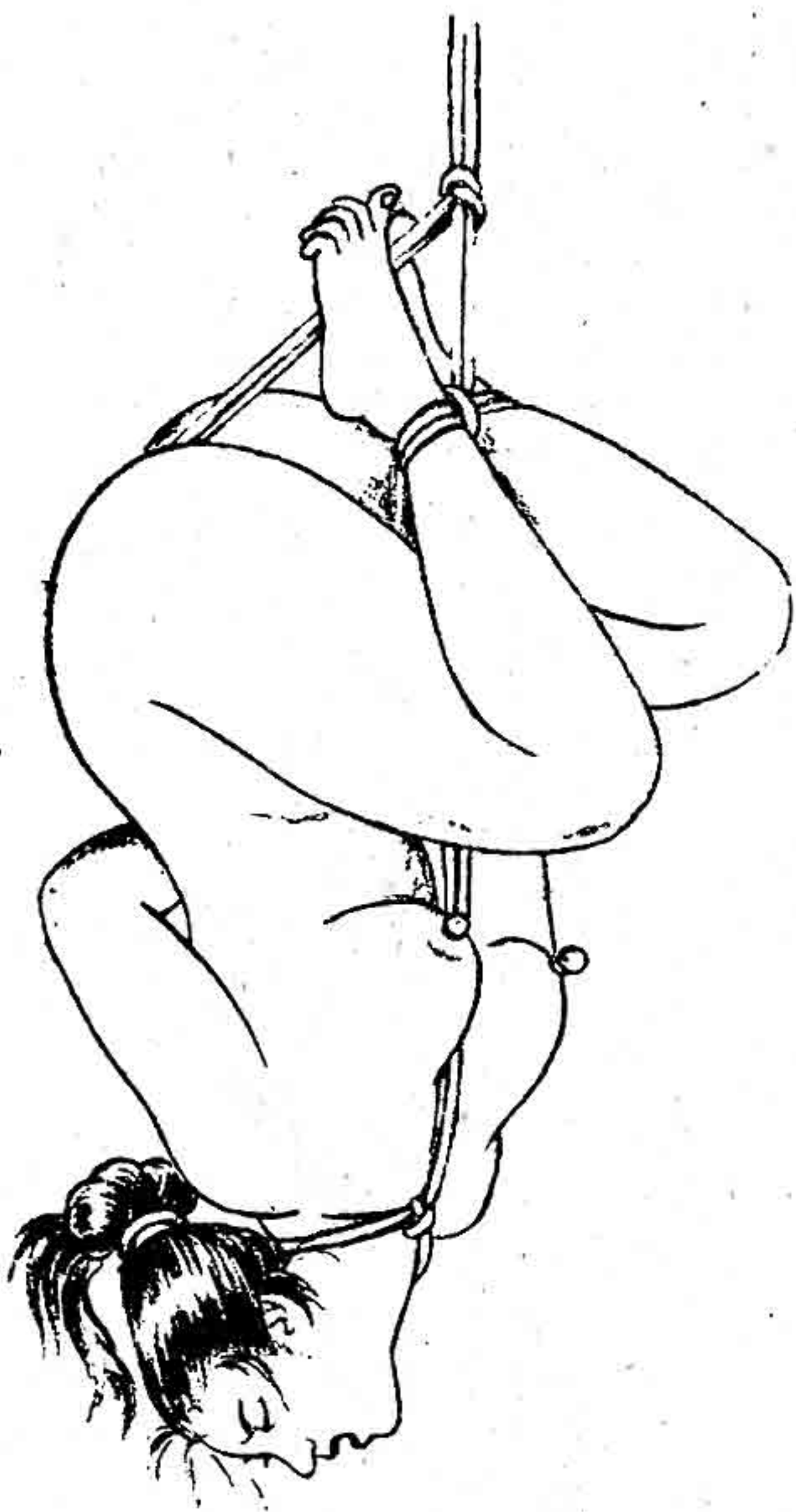
が接吻するシーンがあるが、そこでも鞭打ち後の尚ふるえ戦のく姿で胸像に秘かに愛慕の口づけをした方が迫真の様な気がするのではないか。

愈々キリスト教徒の一群が大闘技場に追い込まれて来る。数方の観衆が血にうえた喚声を上げて待ち構えている。鞭はつまづき倒れる女子供にも容赦なく飛んで来て、暴帝ネロの右手が高く上げられるや、餓えたライオンが穴から這い出して来た。流血に人間が喰い殺されるシーンはないが、逃げ廻つた揚句、遂にライオンの口に咥え引きずられて行く女の死体、漸く葛の様な蔓にすがり付いて這い上る男が、飛びかかったライオンの中へ蔓が切れて落ちて行くシーン、更に凄惨なのは、ロングで撮っているとは云え、闘技場のあちこちに猛獣に引き千切られた死体が転つているシーンである。私は寧ろ教徒達が獄舎の小窓からライオンの檻車が到着するのを覗き見て戦慄する処、尚老將軍ブラウティスが刑場に引き出された愛妻を鉄格子にすがり付いて眼で追うシーンに猛獣の咆哮をダブらせ

ただで充分映画的には却つて成功していると思うが。

次いで使徒ピーターが初めて説教をした丘の上で殆んど裸体で、しかも逆さハリツケである。一方闘技場では十字架が立ち並び男も女も押し上げられる様に縛りつけられ、薪に火が放たれて炎々と燃え上る。メラメラと赤い舌の様な火、渦巻く黒煙の間から衣服にその火が這い移るのかギヤアと云う女の絶叫、このギヤアと云う悲鳴が非常に素晴らしい効果を出している。然しモ少し女の十字架にかけられる処をアップで撮して欲しかった。兎に角この「クオ・ヴァデイス」は「奇ク」の読者には是非一見の価値があると信ずるものだ。

愈々最後に、広い闘技場の中央の柱に、捕われの美女リシアが縛りつけられ、怒り狂つた猛牛の襲いかゝるのを巨人ウルススが素手で彼女の防壁となる処だ、こゝが恐らくこの映画のヤマであろう。然し誠に惜しい事である。名画「哀愁」を以つて世界の婦女子の紅涙をしばらせ魂まで奪つた名監督マ



「ヴァイン・ルロイともあろうものが、残念乍らえらい失敗をしているのである。獄舎から美女リシアが引出されて来る時、彼女は今迄の衣裳を棄て、うすものを纏わされる。その羅衣を通して覗かれる彼女の胸、そして太腿から素足までの曲線、それらは確かに覗いて知る事は出来るが、なぜアップして呉れなかつたろう。獄舎から兵士たちに左右から囲まれて運ぶ重い足どり、そこを腰から下のクローズアップにして移動させたならと残念でならない。これから猛牛につき殺される輕羅の美女といった、美しきサジステイックな劇的興奮が味われる事少なかつた。

そして今一つ、ネロの妃ポツペアがネロの手によつて絞殺される場合も毒婦ポツペアの白い肢体がもつと身近かに崩折れて欲しかった。誠に残念で仕方がない。

処々、映画技術としては、確かに相当のスペクタクルの興味はあるが、如何にも平面的に描き過ぎている。然し本誌の愛読者には種々の話題を提供してくれるに違いない。そしてペトロニウスが告別の宴で、奴隷女ユーニスを解放して、奴隷の印である腕輪一つを取りはずしてやるシーンにしても、又最後に彼等二人が相擁して自殺する其の方法にしても、私達には中々盡きぬ研究資料ではあるまいか。(八・四・夜)

が門を開いてあたふたと右段を下りてくるのがヘッドライトの光茫の中に見えました。樹立の中を通つて新居の玄関へ行き着く迄に私はすりりとした背丈を清楚なお召に包んだ津矢子に逢いました。私は書類の入つた鞆を手渡ししながら、彼女の姿を見ると急に疑つていた自分がおかしいような気がして、冬木の奴、つまらない冗談を言やがつた。と思うようになりました。津矢子が笑い乍ら否定してくれる事を百パーセント信じて、私は泉水に面したベランダのソファアーに腰を下して、女中の持つてきたおしぼりで顔を拭いていました。

の癖で今順調に進捗している新会社の経営の事に頭をそらせました。私の全身は急に精気に溢れ身体が軽くなつたように思えました。

「津矢子、あなたは私に何かかくしている事はないかね？」

それは十分やさしい平常と変らぬ語調でした。然し平常から私の金科玉条にしている積極戦法(しようかしよまいかと思つた時はせよ)の知らず知らずのあらわれたつたのでしょうか。何の抵抗もなく、すらすらと口が出たのです。それでも、私は彼女の表情の動きと返答を大きな期待と関心とを持つて見守つていました。然し、私は新妻の羞恥以上に彼女の身体全体の動揺を見逃す事が出来ませんでした。こゝで私の嗜虐的傾向が頭を擡げました。仕事の上でも部下が失敗して自分から平あやまりに詫びて恐縮したりすると、更に頭ごなしに叱りつけて虐めてやりた

先を向けたくなるのでした。

「津矢子、夏祭りの晩は僕と別れてから冬木君と逢つたんだつてね」

この私の言葉は彼女に致命的な衝撃を与えたようです。実際、私自身が驚く位、みじめな狼狽の仕方でした。心持ち紅潮した頬をじつとつむけて黙っていました。

「おい、逢つたか、逢わなかつたのか返事してみ給え」

今迄にない私の強い語氣に彼女はおずおずと顔を挙げて上目づかいに私の表情をのぞき込むのでした。私の顔は自分自身でさえこわばつていいると感ずる位、固い表情になっていました。

彼女は私の表情を盗み見ると再び視線を膝の上に落してじつと黙つたまゝでした。暫く息詰まるような時間が過ぎました。真白い彼女の顔が心持ちかすかにふるえているようです。

「今日、僕は冬木から妙な事を聞いたのでね、あなたに真偽を尋ねてみようと思つて――」

私は彼女が何か云つて呉れることを期待してそこ迄言いかけてましたが、彼

女は固くつむんだ口を開こうとはしませんでした。そこには何かあてふてしもないさへ感ずるのでした。新婚の夢まだ浅いというのに、妻の秘密を問い訊さなければならぬとは何んということでしょう。現在の自分には、この事が如何なる事よりも重大な事柄に思えてきました。

「津矢子、なぜ返事しないんだ、返事出来ない様な事でもあつたのかね」

そこ迄言つてもかたくなに沈黙を守る妻に私は夫として結婚以来始めての暴力をふるいました。顎に手をかける

(続く)



アルバム

「美しき縛しめ」

速見保

短評

期待に背かず大変立派な作品揃いで

感心しました。只焼付写真と違つてコロタイプ印刷だけに、姿態美の鑑賞という観点より見れば、稍不満のあるのは已むを得ないことであろうが、すば抜けて秀れたポーズもある代り題名に適わしからぬポーズも見うけられ、一律に批判は出来ないが、大体女体の美しさと責められる女の姿態という二点に中心を置いて、左の如く短評を試みました、将来の御参考となれば幸いです

一、海老責 海老責の姿態としては何となく物足りない、足首から首筋にかけての細の締りが隠されているせい、海老責特有の緊縛感が薄れている

二、高手小手、高手小手の緊縛感十分である、肉体の線も美しく、苦悶の表情すらも自然に滲み出て魅惑的である、唯解説者の指摘する如く、女体美の中心ともいふべき乳房が、鑑賞外

へそれたのは惜しいことである。

三、芋虫、素晴らしい特写である。

本集中一二を争う傑作である、細のかけ方から身体の角度の狙い等、全く芋虫そっくりの姿態から女体の持つ魅力が妖しいまでの芳香を放っている。

四、乳房、鎖が都合で置きかえられたのであるが、秀逸の部に属する。

細の効果についての説明は十分に分るが、折角締め上げられた乳房が、正面から鑑賞出来ないのは稍心残りである

五、床の置物、素晴らしいポーズである、題名通り床の間を背景にした一層魅力を加えたに相違ない、縛り方についても解説者の意見に全く同感である、モデルには甚だ失礼ではあるがこんな風流な床の置物が若し見つかるなら、千金を投じてでも悔いないであろう。

六、紅と白、残念乍ら解説者の説明

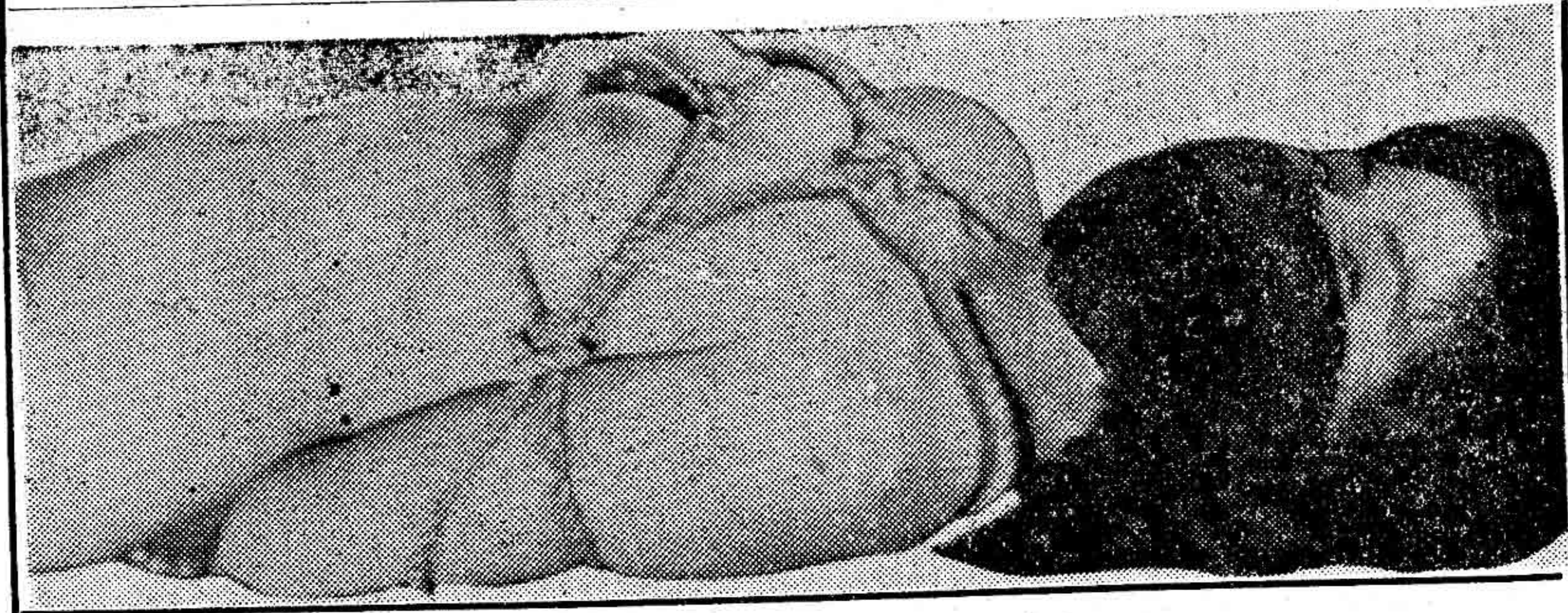
には同調出来ない、作品の苦心は分るが、題名のヒントが何となく頭に来ない感じである、宙吊りの実感についても、着衣のまゝ胸や腰を支えているのでは、その効果は左程考えられない。

七、目の綾、一筋の細の効果は十分窺われるが、体験者でない者には、その姿態の魅力がびつたりと来ない、肝腎の女体美についても背中や腰、足の線に天々敵い切れない不満がある。

八、雁字搦目、芋虫と同じモデルと思うが、勿論女体美については申分はない、ポーズについても解説者の意見を十分尊重するが、唯顔や胸のあたりの色黒さと、目を閉じさせなかつた点は恐らく作者のミスディクであらう。

九、足枷、題名に適わしいポーズとは受取れない、竹の棒の代用品では足枷としての実感が出て来ない、着衣の関係もあらうが、女体美が少しも發揮されてはいないのは一層このポーズに対する不満を湧き立たせる。

十、鞭打ち、ポーズとしては誠に申分ない、肉体美に稍難はあるが、苛虐の犠牲としては絶好のポーズであろう



日本娘には、到底見出すことの出来ない……エキゾチックな味であった。

死んだように見えた娘が、突然、ビクツ!!と全身をふるわした時、Mは白いブラジャーをむしり取つていた。素晴らしい創造主の造作が、無難作にコボレ出た。男を知らぬヴィーナスの丘は、ピンと反り返つて、赤い木の実のような乳房をのせ、たえきれぬ羞恥にバラ色に染つていった。Mは。その悪魔のような獣面を、その卑しく曲げた唇を、近々と近づけていった。娘は懸命にのぞけり、呻いた。

しかし、無残な罪の椅子——光る毒ぐもの四肢と、鉄製の首枷は、完全に娘の自由を奪っている。

次は、たつた一つ残つたコルセットMは、尻当てを急角度に傾けたその見事な臀部は、もろくも滑り落ちる。両手は充分後方に引かせ、背当てを動かして、胸をぐんと前方に、今はその乳当てを失つた一つの隆起を突き出させると、両足は延ばして後に引いた。そして、Mは、愉しむように弓にのけそつた宙吊りの姿から、そのビツチリし

まつたコルセットとパンティを少しづつずらせていくのである。

ブロードの波を打たせ、バラ色に染つた肌をよじらせる娘、羞恥と苦悩のウメキが、口に詰め込まれた靴下の下から流れる。

Mは加虐の云いしれぬ喜びに酔つて次第に興奮の絶頂へと登つて行つた。ついに文字通り素裸の金髪の乙女が

「クオ・ヴァデイス」の試写室から

泉 辰 之 助

今私は東銀座のフィルム・ビルの六階にあるMGNの試写室から帰つて来たばかりだ。映写時間三時間、總天然

色映画「クオ・ヴァデイス」を、九月初旬のロードショーに先立つ一ヶ月も早く見る事が出来た。然しこゝで其の映画評を試みようとするのでは勿論ない。ローマの暴帝ネロがローマ市街の炎上から大闘技場に於けるキリスト教徒虐殺の戦慄すべき数多のシーンを「奇クの」一読者の立場から少しく書いて見たいと思う。

出来上つた時、隣室の椅子職人の心臓

はその鼓動を止めた。と、その瞬間!!鼻口から後頭部へかけてツンと激しいものが走つた。眼前の全裸の乙女が七色の虹になつて、ぐるぐ廻つた。

そして、底知れぬ暗闇に沈んで行つた。隣室の彼の作つた罪の椅子は、いよくその完全な機能を働かし始めたのである。(終り)

然し一般に公開上映される場合、どこ迄このまゝの姿が見られるか疑問ではあるが。

第一は凱旋將軍マーカスが伯父のペトロニウスの家を訪れる処だ。伯父は女奴隷ユーニス連れて来させて彼の前にその美しさを見せる。最初は花の様な顔を上げさせ、その背面の曲線の流れを鑑賞させ、更に両腕をうなじに組ませて二の腕から胸へかけての隆起を楽しませる。彼女は主人ペトロニウスの膝元にすがつて(何処にもやらな

いで、どんなことでも致しますから)と哀願する。牛六頭とも交換出来るこの奴隷娘を、さあお前に進呈しようとして伯父は云う。ユーニスは愛する主人から離れたくない。涙まで流してとりすがる。(この主人の命令に背く娘を連れて行け、そして鞭打つのだ)、遂に彼女は他の召使に捉え去られる。

その時だ、主人ペトロニウスが彼女の腕を掴まれて引き立てられて行く後姿に向つて「その女の肌を傷つけぬ様に鞭打つのだぞ」と叫ぶ処である。此は誠に面白い言葉である。だが平凡だ私なら女も主人にこれ程の愛を捧げ、主人も奴隷娘に哀感を抱く、二人の男と女としての愛情を持つてさえ当時の主人が奴隷に対する刑罰としての鞭打ちを課するのが当然なら、寧ろ女が苦痛に耐えんとして主人を慕い乍ら却つて鞭打ちを雪白の肌に与えられるシーンの方が見たかつた。恐らくユーニスの愛と苦悶との相対した表情など、単なるキリスト教徒迫害のサディズムより新しい美を幾層倍も強調してくれた事であろう。後で主人の胸像に彼女

原稿募集

一、すべて未発表のアップ的興味のある作品を望みます。
 一、内容形式は本誌に適合と思われものでしたら如何なるものでも結構です。
 一、文章の巧拙、用紙は問いません。
 一、発表作品には発行後相当

十一、蠟燭、ロソク責めのポーズとしては絶品の部であらう、蠟涙が腿から怪へ落ちる瞬間を捉えたカメラの効果は素晴らしい、豊満な肉体の要素々々に廻された僅かな細目にも緊縛の魅力が溢れている、唯惜しむらくは、肩と腿に立てられたロソクの棒が、白い肉体に天々ばかされてしまったことである。

十二、滑車吊、作者の苦心は十二分に推察出来るが、緊縛美としては余り高く評価出来ない、女体美はとも角として、団子形にもつれた中央の吊縄や壁の帽子掛は折角の雰囲気著しく減殺する。

十三、観念、本集中最高位に推している逸品である、観念に徹した女体美

以上

の謝礼を差上げます。
 一、原稿は原則として御返戻申上げかねます。
 一、締切日は特に定めません。
 一、読者の体験告白文は内容及その長短は問いません、誌上匿名は御自由です、奮って御応募下さい。
 (奇譚クラブ編集部)

の魅力を全に發揮したものではない。白磁のような女体は鑑賞美の極致である。

十四、荒縄、輝くような白い肉体がよく撮れている点では本集中の白眉である、二の腕や下腹、さては足の指あたりにも緊縛感がありくくと窺われる。

十五、犠牲台、ポーズとしては中々巧妙に出来ている、高小手手に縛められた両腕、乳房の締め具合、片膝立てた足の開き具合等、誠に一点隙のないポーズである。

十六、皺ぐつわ、作者も告白しているように本集中でも最も妙味の薄い作品である、率直に云えば、題名を他に求めて本作品は除外すべきであつた。

会友通信

暑さ酷しい折柄会員の皆様には益々御健勝の事と存じます、小生も悩めるサジストの一人であります。サジストと申ししても、一寸変つて居りますのは、女性を打つたり蹴つたり惨虐なものは余り興味がなく、只操責にだけに異常な関心を持つて居ります、十年程前、未だ思春期の頃、御家騒動の芝居で美しい忠義な御殿女中が、意地悪なお妾から憎まれて、お妾付の女中達から縛られてよつてかつて操責にされる一幕を見又同様の小説を読んだから操責に異常な興味を抱くようになりました。サジストのくせに気が弱い為、表面聖人君子のように装つて居り、そんな事はおくびにも出さないで、未だそんな経験はありませんために返つて、心中その思いで常に悩んで居ります、美しい上品な淑やかな女性を見る度に、あゝ、こんな女性を思

うまゝに操つて愛撫してあげることが出来たらこの人生はどんなに希望と喜びに満ちる事かと思ひます女性に操つたそうに身体をくねらせて、美しい笑の悲鳴をあげている光景は、何と美しい艶な姿態でありましょう。操責も長時間、強度にされると死に至るそうですが、私はそんな酷い責め方は好みませんが、愛とロマンとを以つて操つてあげたいのです、責というより前戯に近いかも知れませんが、軽度のマゾヒストの女性はこの様にされたら何とも云えない楽しい興奮とスリルに酔うのではないのでしょうか、操責は最も愛情の溢れた責であると思ひます。会員の方で操責に関する文献や小説等御存知でしたら御教示下さい、操りの悦びに興味を持たれるお優しいマゾヒストの御婦人の御方が居られましたら、何卒御文通賜りたく御願ひ申し上げます。会員の皆様様の御健康と御幸福を御祈り致します。(東京NO二五九九)



罪の椅子

(六)

飛田良二

日本娘には到底見られない、均勢のとれた伸びやかな四肢は、小さな円い尻当ての上で、力を失つてぐつたりと倒れていた。

Mは、この美しくもいじらしい異国の小娘を目の前にして、異常な心の昂りを押えきれなかつた。「見事だ!」と心の中で叫んでいた。スーツが邪魔だつた。彼は、この娘は永久にKにはやるまいと心に決めた。この地下室に永久に閉じこめられておくかきり服は無くともよいのだ。やにわにMは鉄を取り出して、手錠をかけたまゝ服を切り出した。タイトのスカートも真中か

ら二つに切り開いた。娘は、このおぞましい悪魔の手から逃れようと、最後の空しい努力を続けていた。白いスリッパにゆつくり鉄を入れたMは、思い返したように、スリッパの紐だけプツリと切ると、いよく椅子を動かして見た。

両手をぐつと開いて上げさせた。椅子は娘の意志を全然無視してMの思いのまま、命令通りに正確に動く。両足を揃えさせた。そして、円い尻当てをぐいと持ち上げさせた。

娘は、両手を高々と上げて立たされたのである。スリッパが、スルルと

滑つて落ちた。すき通るような肌、羞恥でバラ色に染る。細く長い手……カモシカを思わせる素晴らしい脚線……きれいなギャザーの入った美しい乳当ては激しく息つき、喰い込むようにびつちりしめたコルセットは、美事な曲線を作つていた。

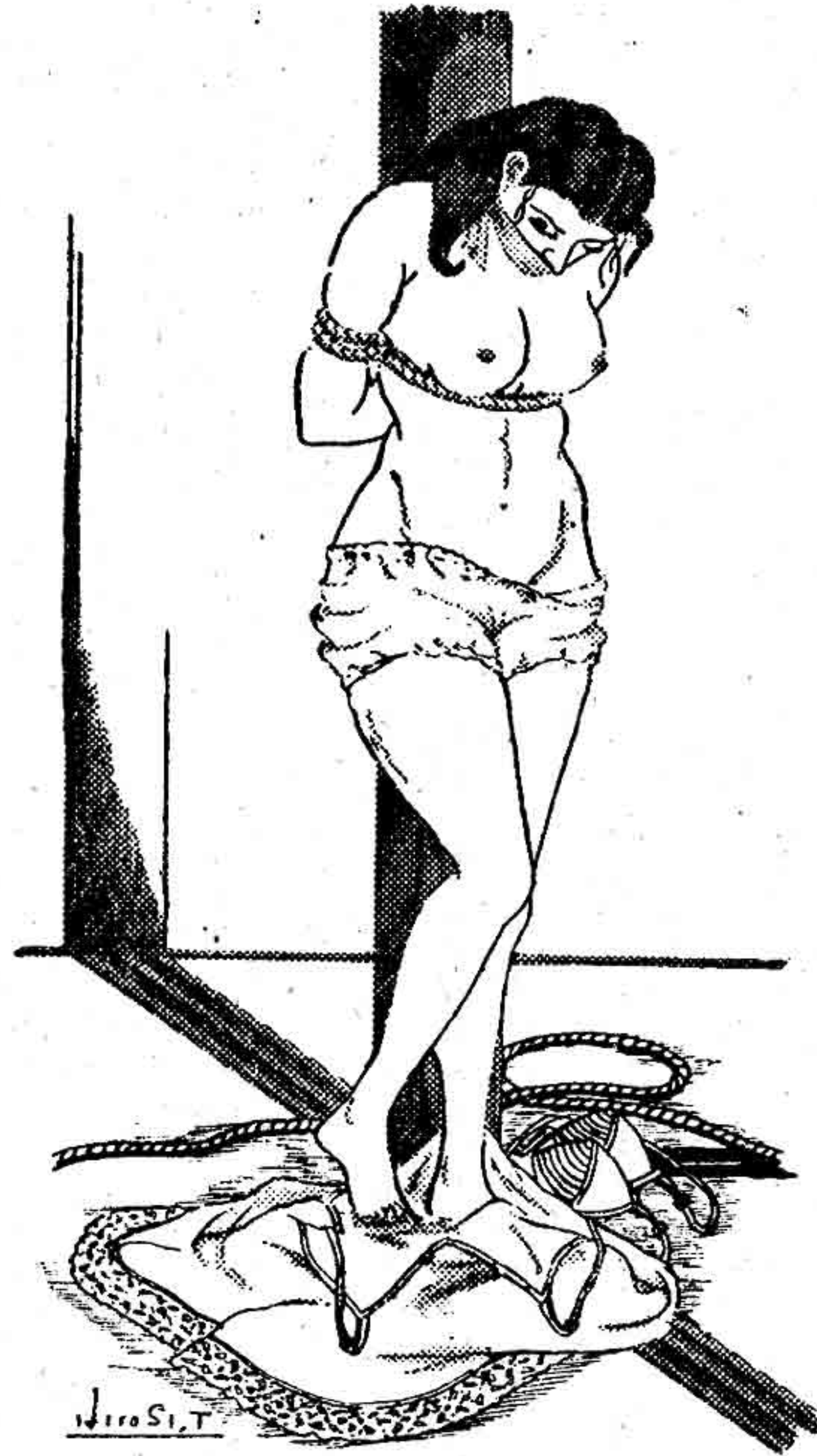
Mは靴を脱がせた。ナイロンの靴下を切つた。そして、その靴下で舌を舐めようように皺ぐつわをはめた。娘は、観念の眼を閉じてじつとしていた。今度は、椅子を動かして両足を開かせた全身の重さが両手に掛つて、娘は、苦しうにうめいた。

飛び出す程見開いた椅子職人の目に突然、わずかに乳当てとコルセットだけにされた、金髪の裸女が三つとび込んできた。Mが、壁と天井のカーテンを一気に引いたのだ。カーテンの陰には一坪もある一枚の大鏡が用意されていた。椅子職人の心臓は、娘の息づかいよりも激しくなつて行つた。眼はじつとその部屋の光景に注がれていた。今度は、娘を元通りその小さい尻当てに腰を下させると、両手は一杯に拡げて両足も太股まで充分に拡げさせて固定すると、細く、かよい首に、無情にも鉄の首枷を掛けて、無理にも正面に向けさせた。

娘は、失心したように、この男の余りにもむい仕打ちに諦めきつたのであろうか、静かになつた。そこで、Mは、今度はその輝くプロンドの髪の中から、紅貝のようなマニキュアした指の爪、細く長い足指の先まで、そのピンクの裸身のあらゆる部分を、一念になめるように改めて視線を向けた。たまらなくなつて觸つたり、つまんだりして見た。それは、今まで取扱つた

○ 信太蓉子さん、こんな失礼なことを書く私を何卒お宥し下さい、貴女がお書きになった八月号の一文を読んでいる中に、私のサデイスチックな血が騒ぎ出しどうしてもペンを執らずにいられなくなつたのです、若し貴女を責めるとしたら私はきつと次の様な方法をとるでしょう、辺鄙な山間にある製材工場の深夜、そこには何抱えもあるよ

うな原木がゴロ／＼転っています、屋間は窓を立てゝいた機械もひっそり静まり返つて犬の遠吠がしています、突然工場の入口の扉が開いて一条の光がさし込んできました、入ってきた男は蠟燭を手に肉づきのよい若い女を高小手に縛つたまゝ背にしています。若い女は貴女で男は私です、男は女を丸裸にする一抱きもある原木に貴女を仰向けのまゝ大の字に縛りつけます。



そしてモーターのスイッチを入れました貴女を縛りつけた原木は足の方から次第に丸鋸へと近づいてゆきます、静寂を破つて原木の一部が鋸にかゝりました、太股と天股の間をゲンゲン切つてゆきます、今正に鋸の歯が肉体の一部に觸れようとした時、男はスイッチを切りました、男の手にした懐中電燈に照らし出された真白い貴女の肉体は恐怖に中ば失神したようにぐつたりとなつています。

竹槍を何本も作り、それが女の体にスレスレに届く位の高さに土中に突き立てます、そして一本の竹槍を手にすると、貴女のお尻のふくらみを突きます痛さの為に腰をひねると、竹はしなつて貴女の身体は竹槍の先にチクチクに刺されます、しかし深くは突き刺さりません、背中の痛さにこらえかねて横向きになれば傍腹に、腋の下に、竹槍の尖端が喰れます。真白い肌は真赤に彩られ、「ヒイーヒイー」という悲鳴も次第に喰れ遂には身体全体が動かなくなり、腰を下してじつとこの有様を見上げている男の顔には満足そうな微笑が浮かんで、この生きた美しい人形を今度はどんな料理法で仕末しようかと考えるのです。

大変失礼な事を書いてしまいましたがお許し下さい。

(東京、桜井英一)

○ 小生は、数ヶ月前からの貴誌の熱烈な愛読者ですが、こゝに常日頃大いなる楽しみと満足を与えて下さる御礼を申し少々、一三の希望乃至お願いを致

長期刑を読み

徳田 伸



完全なマゾヒスト！完全な女奴隷！なんという素晴らしい何という悩ましい言葉でしょう。私の夜毎悩ましくも空想するマゾヒストの女性がそのまゝ書かれているではありませんか。私はすっかり昂奮してしまつて何回も繰り返し読みました、囚衣、続囚衣そして今度の長期刑と、古川裕子さんの告白は実に素晴らしい、私の空想的サデイズムを完全に満足させてくれました私は空想の中でいつもマゾヒストの女性を虐げます。時にはその女性が裕子さんであつたりします。女奴隷！すべての自由を奪われた女、全裸に手錠、足枷、首輪がつきそれには全部鎖がついています。そしていろいろの労働をさせられ、一寸でもなまけると私の手にある皮の鞭が背を打ちます。夜は鎖で柱に繋がれたまゝ眠らねばなりません。空想は次から次と続きます。女奴隷これにはどんな刑罰でも行えるので

す。少しでも手落があると、その種類によつていろいろの刑罰が課せられます。磔柱に縛りつけられて一日中晒しものにしたり、高小手に縛り上げ宙吊りにして鞭を打たれるのはやさしい方です。駿河責め、算盤責め、蠟燭責め、火焙り等残酷な刑罰が課せられます。又変つた責め方としては一日中大にならねばなりません。首輪をはめて鎖で繋がれ四つ這いになつています。勿論犬ですから立つて歩くことも、人間並に言葉を話すことも許されません御飯は皿に直接口をつけて食べるのです。犬小屋を作りその中で眠るのです又、馬にされることもあります。口にくっわをはめられ背に鞍を乗せて、私を乗せて歩くのです。又四つ這いのまゝ車をひかされま

す。皮の手綱を持つて私は馬車に乗り鞭で馬の尻をびしびし叩きます。或時は猛獣として檻に入れられます。これは皆私の女奴隷に対する刑罰なのです。こんな空想が次から次と続きますこのような刑罰を好まれる女性の方は居られるでしょうか、実際私はこれを行つたことはありません。私は単なる空想でなく、こんなことを毎日行えたらどんなに幸福だろうと思います。私は

は今非常に惨虐な長期刑を考えています。機会を見て発表させて頂きたいと思つています。裕子さんは長期刑をつまらない繰り返しの言だと云われますが、こんな素晴らしい告白だつたらどんなに発表して欲しいと思います。裕子さんのような女性は、私のようなサデイズトの男性にとつては非常に好ましい存在です。私は裕子さんにお会いしたい気持で一杯なのです。



女性拷問を見る

こうのこうさく
神野孝作

舟橋聖一氏の「娼婦の手帖」に童子という美しい娘が杉又という特高刑事に拷問を受ける場面があり、この事は本誌四月号で泉辰之助氏が「妓の影」で述べていられますが、私にもこれによく似た経験をしましたので、これからお話ししたいと思います。私は経験をしてから最近でも、時々夢に見て驚いて眼をさますことがあります。

先日、夜明け方のことでしたが、私が学校の運動場のようなところにたつた一人で立っていますと、教室のあたりから「ヒエーツ、ヒエーツ」という若い女の悲鳴が聞えてくるのです。その声といつたら腸を絞るというか、まるで絹をさくようなすさまじい泣声なのです。私は何事かと思つて、その泣声のする部屋へ行つてみますと、数人の荒くれ男たちが、二十才ばかりの女を素裸に机の足に縛りつけて、何事かを白状しろと責めているのです。あた

りは真暗なのに、こゝだけがはつきりと私の眼にありありとうつるのです。男たちのあらゆる羞しめにあつたうち廻つて泣き叫ぶ女、私は見震いするような恐ろしさに、目がさめたのですが、胸の上の手をのせて、全身汗びつしよりになつていました。そして目が覚めてからも、その女の悲鳴が耳についてとうとう眠れませんでした。

私がそんなに夢にまで度々うなされたとこの恐ろしい経験は、丁度戦争が始まる一年程前のことでした。私が住んでいたアパートの隣室に、東京某署の特高刑事をしているAが住んでいて、勝つたり負けたりする将棋友達だつた所から、Aの取調を偶然見せて貰う機会を得たのです。

その時、赤の容疑で逮捕されたのは直接共産党に關係したというのではなく、いのですが、黨員の容疑者との文通が足がついて、何らかの手掛りを得よ

うとするために引致された若い女でした。

さて自供させるといつても大した根拠もなかつたようですが、相手が若い未婚の女というだけに多分にサデイスチックな興味が、彼等の念頭にあつたのでしよう。勿論當時の特高の取調べでありますから人道を無視した甚しい方法の拷問でありました。私は別にそういう事に興味を持つといつた方ではありませんし、又、Aとは将棋友達ではあつても、平常はついそそんな事について話したことはありませんでした。一夜、私にその「取調」を見せてくれた彼は、職業柄そういった事に異常な興味を持つ執拗な（或る反面職務に熱心ともいえる）責め方をする男で、私は初め彼の反面を見せられたような気がしました。

私もその取調べを見させて貰つて、普通一般の男性としての興味を持つて眺めたのですが、正直に白状しますと、それから十年以上も経つて未だにその事に関連した夢を見る位ですから、私にとつて大変な刺激であつた事は間違

いありません。普通、そんな場面を一般人の私が見る機会はないわけですが丁度都合にもAの宿直の日、某官様の御微行で、警戒のため、殆んどの署員が出動した日でしたので、宿直室で将棋をさしているうち、話がその女の容疑者の事に及んで、とうとうそんなことになつてしまつたのです。逮捕されてた女は廿才とのことでしたが大柄な肉づきのよい身体は齡よりも一つ二つ老けて見えていました。乳房が上向きにピンと張つて、胸のところで細くくびれ、小麦色の健康そうな肌をしていました。

容貌は特に美しいといつたものではありませんでしたが、どちらかといえは冷たいインテリ臭のする異国風な顔つきでした。

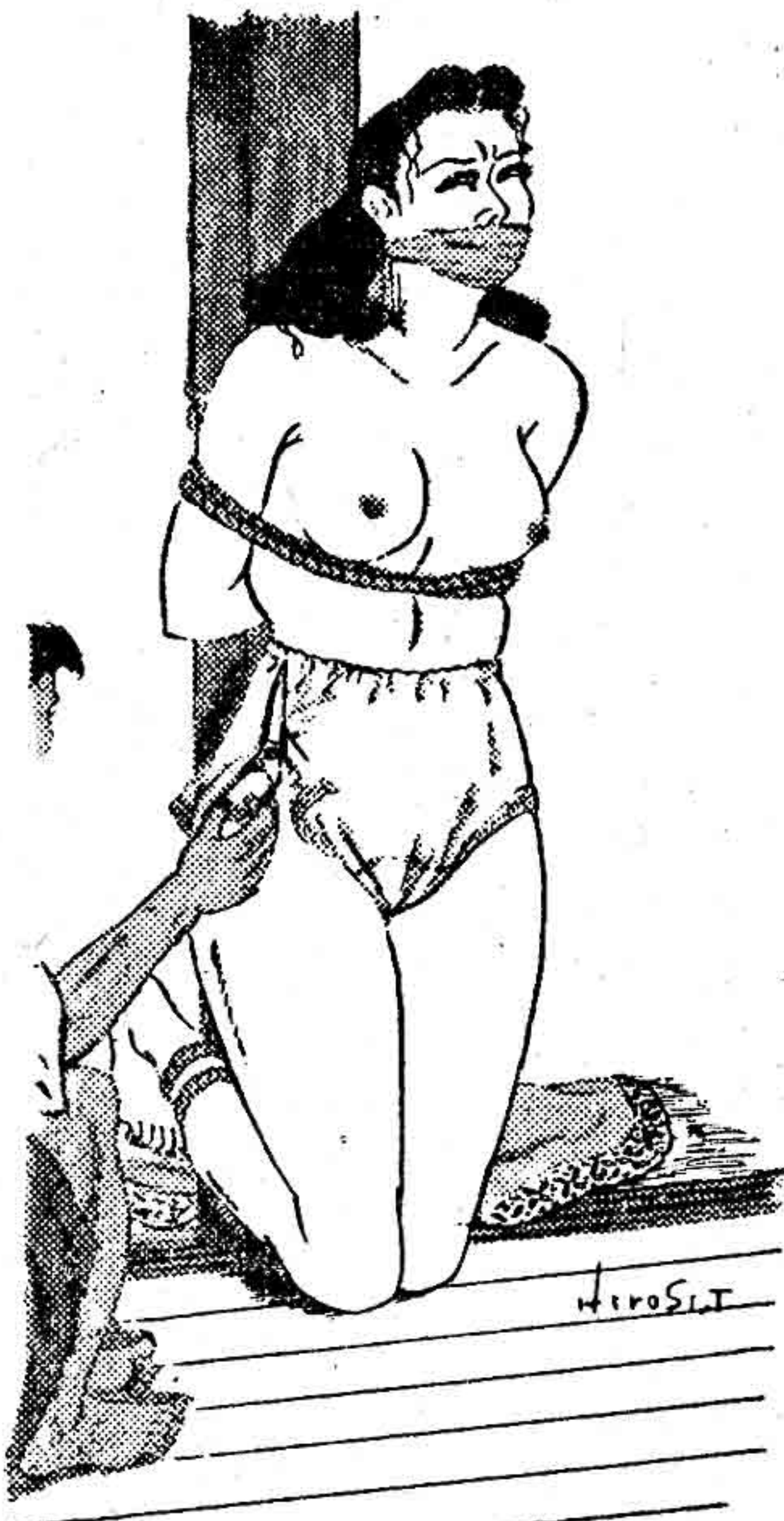
私がその取調べの部屋へ入つていつたときには、定石的に両手は高く後に縛り上げられ、口にはしつかりと詰め物をされた上を手拭で固く覆つて話をされていました。両脚は椅子の両脚にそれぞれ括られて股を、聞かせられていました。（未完）

したいと思ひます、一つには、これは私の年令——満二十才——から来るものかも知れませんが、貴誌の被縛女性の繪及写真のそれが、すべて所謂肉体美の女性の裸体、若しくは時代衣裳の年増女であつて、何かしら自分の好感を呼びません。勿論、それにはそれなりの美と魅力があることでしょうがやはり私には、新鮮な少女若しくは現代的な洋装に身を包んだ若い女性が、着衣のまゝきちんと柱なり立木なりに縛りつけられているのを見る方が遙かに魅力的な美の極致を示すように感じられます。ましてやそれが愛くるしい制服の女学生であつたなら……その玩弄！責め……。雅気臭い青年の夢かも知れませんが、他にも私と同意見の有志がありましたら、どうか貴誌の一端にでも加えて頂ければ幸いです、その二は、私にとつて最もユニークな、個性的な事柄ですが、私には幼い時より人体のうち特に魅力を感じてゐる所があるのです。そしてそれは、現在の女性に対するサデイスチックな興味の中

で、非常に重要な役割を果すものとなつてゐるのです。全く變つてゐるのです。私に今、無抵抗に縛られた女性——少女——が与えられたならば、私は先ず何よりも先に少女の鼻を犯すでしょう、鼻をポチャリとつまみ、つまみあげて引つ張り、鼻の頭を押して鼻孔を拡張、拡張した鼻孔にマツチ棒を差し込み、容赦なく中を擦り存分に鼻を弄つた末でなければならぬことは致さないでしよう、又少女を責め、拷問するのにも鼻は恰好の場所となります、先ず鼻の孔にこよりを入れて奥深く擦る次いで鼻しつべの乱打、鼻の先をローソクの燭で焙りいぶす、鼻孔の中でマツチを燃やす、又逆さに吊して鼻の孔に水を注ぎ込む、油を入れ砂を詰め込む、そして最後に鼻吊りと稱して、鼻孔に鉄の鉤を押し込み細をつけて天井から吊す。そして足に次々と重みを加えてゆき、最後に少女の鼻は無残にも……といつた具合なのですが、これが私の

夢であり快楽の極致であることは一寸常人には想像も出来ないでしょうしかし事実はなっており、しかも私のそれは如何なるものによつても充たされることなく、貴誌とてもその例外ではありません、私のこの慾望を満足させるものは実行以外にないのです、私は必死になつて、こと鼻に關することは、あらゆる階層の雑誌に求めましたが、「鼻をつまむ」ということすら全く無いの

が現実でした、そこで止むなく私の取つた手段は、少年冒險雑誌を購入し、縛られた少女達——その種の雑誌には仲々こういったものが豊富です——の繪や受難記に、私なりの附加物を施し色をつけることです、少女の鼻には、それをつまむ男の指や、鼻孔を突つく棒や、鼻先を焙る燭が画かれ、快青年が助けに来る部分は削除されて少女は無残にも、鼻吊りにかけられるが荒く



れ男共に柔い鼻をつまみ放題にされるのが例でした。しかし、このような不自然な方法では仲々充分な満足は得られず、是非とも真に迫った鼻の玩弄文や素晴らしい鼻弄りの風景が欲しくて欲しくてたまらないのが今の状態です。しかし自分のこの趣好の異常性を自覚するにつけても、かゝる欲望の達せられないことは判然と知られるのです。一途の希望を貴誌に托して、私の求めているような女性の鼻の受難の繪及び文章がありましたら是非とも御知らせ願いたいと思ひまして、ここに恥をしきまして、私が非常に食指を唆られるのは、貴誌新年号の升岡金吉氏の「鼻腔礼讃」の一文です、私は私なりの鼻の美術的な研究はして居りますが、氏が如何にこの鼻の美しさを観ているか全く非常な好奇心を唆らずには居られません。

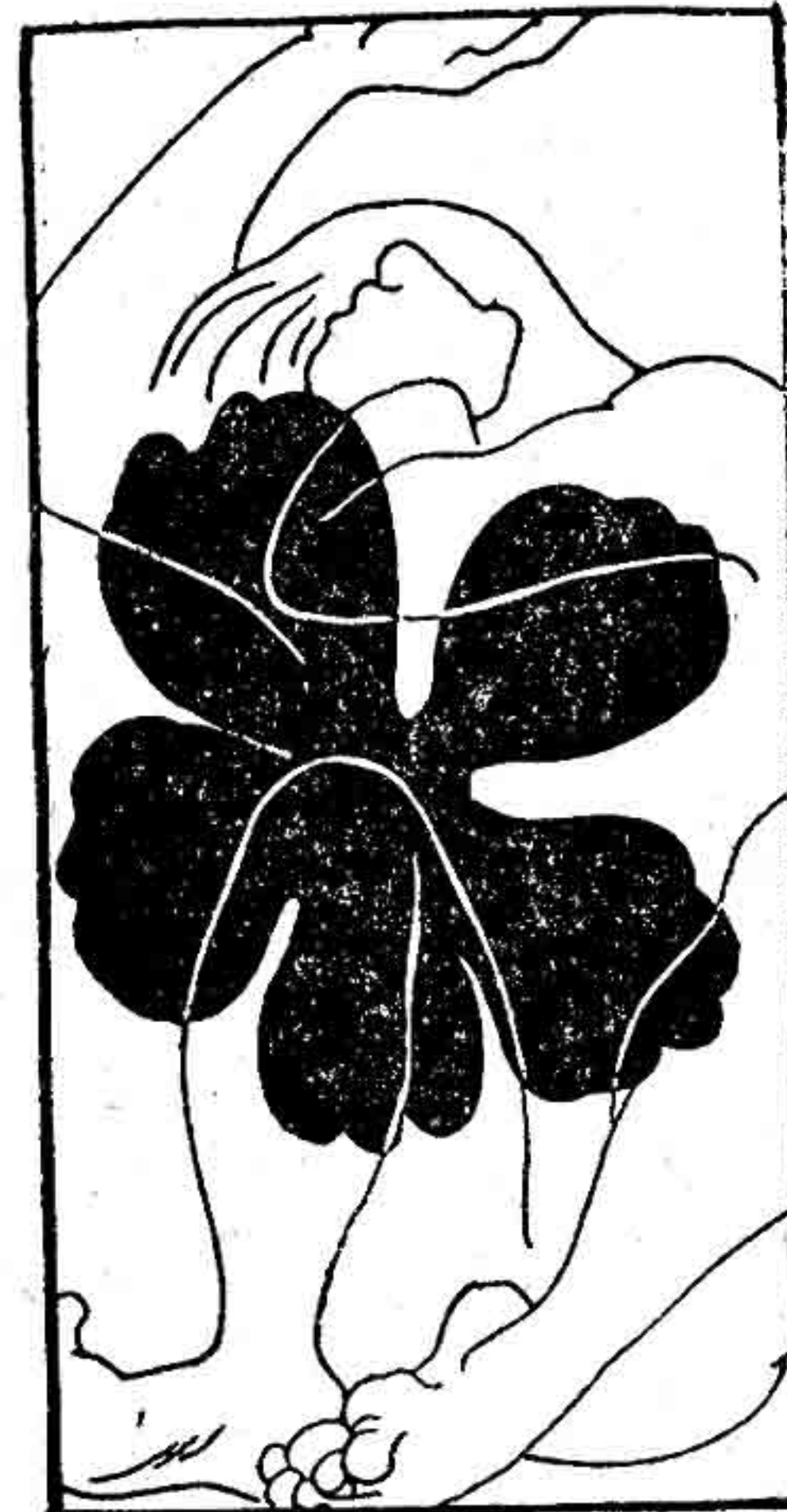
手記より「を一番楽しく読み、来月号が待たれてなりません、実の処私自身マゾヒストなものですから、その感を深くするので、更にそのマゾヒストの在り方に於て、私は女性よりの虐待に限りなき愛着を持つものですから、読みながら昂奮する位です。しかし、ここで私はビロードを好きなためか、（この場合一種の性的嗜好物として）若い美しい女性がビロードの衣装をまとつて男性を苛めることの空想を一層喜ぶのです、種々なビロード衣装、そして色艶とそれの着こなした一つの魅力を感じつつ、且ビロードをまとつた女の魅力に更に一つの感激を求め、軽度な嘲りと強度な虐待の内に、身も魂も空ろにされる喜びを思ふのです、その場合も、朝から晩まで素裸にされたまゝ、両手を吊り上げられて只、身体に触れる女性の肉体と、それをまとうビロードも限りなく自分の肉体に触れ表情の甘美さの中に女性の魅惑を男に投げかけ、柔かいビロードで快く自分を弄ぶ仕方が嬉しいものであり、又は寝かされた姿勢で、馬乗りの女性のビ

ロードのズボンの間から尿水を飲まされたりすることが、どんなにか嬉しいでしょう、出来るなら、そうしたビロードを扱った文章で、先程の記事を構想して戴くか、又は誰かそうした文章で書いて欲しいと思ひます、只ビロードを着ている丈でなしに、その持つ快よい感觸の甘美的昂奮感をも巧みに書き出して貰えたらと思ひます、こんな事を書いて如何にも恥かしい次第ですが、若し同好の士でもあらばと思ひまして。妄言多謝。（春山富雄）

き（殊にヴィエルの画集等）御一覽に供しても結構です、何卒小生の希望御聞届け相成りたく、殊に本月号の第三頁目一行よりの三行につき、趣味を持ち居りますにつき右様の趣味有之 Frau 居れば小生貴殿の前にてその行為をおみせ致します、取急ぎ之まで。（森本愛造一六〇二号）

私も多数の男性がそうであるように一種の軽度なサディズムであります。が然し余りに残忍なのは好ましくありません、例えば女を縛るにしても荒縄よりしごき、布紐等の方が良く、責めも肉体的より心理的な責めの方が好きです、鞭ぐつわは、はめた方が好きです（この合、黒色より白布を使用したものが好きです）全裸よりも少し被服を着けた方が好きです、例えばブラジャー、シユミーズ、長襦袢程度のものに従つて責めのアイデアとして白布をまとつた女が、白布で鞭ぐつわ又は目隠しされ、後手に縛られたもの又は十字架にかけられたもの、その意味で看護婦の縛られた姿などは、面白いと思ひます、如何でしょうか？ 一三三〇号

ホモセクション 憩いの場所 矢田真一郎



大阪球場の近くにスケート場があるそのスケート場の前、南海電車の高架の東側に「河長」と云う小さなスタンドがある。附近は余り繁華な所でもないが、このスタンドは実は男色者の集る所なのである。

話は一寸変わるが、私は女には余り好感を覚えないのであるが、年の若い二十才位から二十四、五才位というところの小柄な美しい男性を求めている。先日ふと東京のBに遊びに行つたが、此処は場所が場所だけに金ばかりとられてちつとも、思うように遊ばしてくれない。それで私は所用を兼ねて東海道を下り大阪に來た。勿論この「河長」さんのこともBで聞いていたのだ。

大阪駅から地下鉄で「ナンバ」に着

く、梅田（大阪駅）から約十分足らずだった。高島屋の前を通り河原町の河長さんの方についたのが丁度、日の暮れる少し前だった。

とにかく入つてビールを飲んだ。

「若い子が一人ほしい、遊びたいと思うので……」

私はBで聞いていたのでまごまごせずにはそうハッキリと云つてしまつた。しかし河長さんの御主人はとても気が良かった。すぐに連れて来てくれた、二十二、三才の別に男前ではないけれど何んとも上品な感じだった。酒もタバコも嗜むが、そう多くは飲まぬと云つた。

一階の四畳半の間に入つた。そうしてこれから私とこの子が一緒

にいたいを楽しむのだと思うと遙々東京から旅をしてきた甲斐があると思つた。

「とにかく、今夜はこゝで泊ろう、申又もシャツもみんな脱いでくれ、そして私の云うようにしてほしい」と私は淀みなく云つた。

膚は陽に焼けてはいるが、二十二、三才という若さをもつていた。やはり若い子はいゝと思つた。静かに近寄つて行つた。窓からはイルミネーションやネオンサインの明滅がこの部屋まで明るくしたり暗くしたりする位に感じた。私はこれだけで満足出来ない。やはり私も此の青年と余り変らない年頃だが、私の方が少し位兄貴かもしれない。

「手と足を縛らしてほしい」

此の青年は少し驚いた様子だったが承知してくれた。仰向けに手と足を括りつけ、そして……。もうすっかり暗くなつていた。時刻は十時を過ぎていた。泊ろうと思つていたが、急用を思ひ出したので別れを告げて表へ出た。

二階の窓からさつきの青年が笑つてい

た。

「また来て下さい」小声だった。私は満足した。

あの青年は東京へ行くという。私が今東京から來たという事を知らないのだ。一緒に行きたいと思つた。

東京の新宿大映の裏にある「BUS EN」という所か、私が先に立寄つたBに行くのかも知れないと云つた。Bは余り高級すぎて駄目だ、同じ行つて働くなら新宿大映の裏の「BUS EN」が良いと云つておいた。八月中きたいと云つていたので、あの青年のそばへ行つてやろうと思つた。

再び大阪駅に戻つたが急行車は全部出た後だった。門司から來た一二列車で東京へ急いだ。

青年が「BUS EN」に來るのが、何よりの楽しみだった。

●KK通信は皆様特別会員の機関誌です。何卒此の小冊子を皆様の身近かな愛誌として充分発展させるため、何なりと御遠慮なく御寄稿御連絡下さるようお願いいたします